林業では、森林組合などと連携し、高性能機械の導入、団地化事業を推進。また町内産材の利用や景観に調和した木造住宅の建築促進を図るため、木造・瓦葺きの一戸建て住宅を建築・購入する際に70万円を上限として補助する、町単独の「町産材利用木造住宅促進補助金事業」を21年秋から始めています。22年度から本格的に実施します。

さらに昨年、愛媛大学農学部に第1次産業の担い手育成を目指す「地域マネジメントコース」が創設されたことを受け、内子町と同大学の間で、内子町からの2人の学生に対し財政支援などを行う覚書を交わしました。これにより、月2万円の奨学金を支出する支援事業費補助金交付事業を設けました。また、併せて積立金300万円の基金条例を設置しました。

3 内子ツーリズムプロジェクト

うちこグリーンツーリズム協会は、どぶろく特区に続いて果樹酒・リキュール特区認定を受け、町内に自生する山ブドウを使った高品質なワイン生産に向け、取り組みを始めています。また「子ども農山漁村交流プロジェクト」で、県内の小学校3校を受け入れました。そのほか、19年の森長禮子（れいこ）さん＝富中＝に続き、大久保ヒロミさん＝宮原＝が「農林漁家民宿おかあさん100選」に認定されました。

街歩き型観光を目指す内子町観光協会は、セミナーの開催やサイクリングロードの選定、ボンネットバス「ちゃがまる」を活用した桜見物ツアーの企画など、観光交流計画に沿った事業を展開しています。

また、山並み保存のシンボルである小田深山を生かそうと、21年度から小田支所を中心に取り組んできた内子町山並保全・活用計画事業で、昨年10月に「せんの森ネイチャーディスカッション2009」を開催。本格的に取り組みを始めています。

町並み保存地区では、20年度から西山徳明（のりあき）九州大学大学院教授らによる調査を行ってきました。3月末に調査報告が完成する予定となっており、これに基づいて持続可能な町並み保存に向けたマスタープランを策定していきます。重要文化財上芳我家住宅の保存修理事業は、白アリ被害による修理範囲の拡大や耐震補強工事の追加変更などにより、23年度までの工期延長と6千2百万円の事業費増加が生じました。同じく重要文化財である大村家住宅も21年から本格的な修理事業に着手しており、所有者の大村博（ひろし）氏＝内子10＝が事業主体となって、24年まで保存修理を行います。

上芳我家保存修理現場一般公開の様子

4 エコエコプロジェクト

環境基本計画の策定における町民参加型の取り組みなどが評価され、21年度、全国2例目となるLAS（ラス）－E第2ステージを取得しました。今後は町民と行政が協働して計画を推進する、一歩進んだ活動が必要となります。

未利用材を使った燃料用ペレットや、竹を使った飼料用ペレットの製造に向け、町内の企業が国の「建設業と地域の元気回復事業補助制度」を活用して活動しています。また廃食油による※BDF製造のため、国の「地域バイオマス利活用交付金」を活用して、21年11月にNPO法人「環境NPOサンラブ」が製造機器を導入。現在3台の公用車がBDFを使用して走行しています。

今後は、環境基本計画やバイオマスタウン構想の推進に向けて、エコロジー（生態系）とエコノミー（経済）の融合を目指した本格的な取り組みを行っていきます。

5 景観まちづくりプロジェクト

21年度の「内子町景観まちづくり計画」の策定に伴い、3月に開かれた景観まちづくり推進フォーラムで、景観まちづくり賞（啓発活動部門2団体、建造物部門1団体）を表彰するなど、景観行政を推進しています。

また農村部の地域資源を生かした景観保全運動を進めるため、参川地区や石畳地区、泉谷地区を重点地域に指定。参川地区をモデルにワークショップなどを開き、「景観農業振興地域整備計画（通称：景観農振計画）」の素案作りを行いました。これらの成果を検

内子産ワインの生産を目指し、山ぶどうの苗を植栽

※BDF＝廃食油などから精製される軽油代替燃料の総称。植物由来のものから精製するため環境に優しい燃料といわれている。

ローテンブルク市からの訪問団の皆さん

証し、景観審議会に諮りながら、地域住民の景観配慮に対する意識を深めるとともに、内子らしい農村景観をつくっていきたいと考えています。

6 教育改革プロジェクト

知、徳、体のバランスがとれた意欲と思いやりのある子どもたちを育てるふるさと教育を推進するため、すべての小中学校で手漉き和紙の卒業証書作りを行いました。またドイツ・ローテンブルク市への中高生派遣事業、小学生の英語教育、中学生対象の英語弁論大会、環境子ども会議なども継続して行っています。

学校統廃合については、「内子町教育改革懇談会」を組織し、小田、五十崎、石畳地区で説明会および意見交換会を開きました。3月末に教育委員会に提出される答申に基づき、統廃合計画を作成して取り組んでいきます。

移住者の多い立川小学校校区の保護者から強い要望があった学童保育は、空き教室を活用し、22年度からモデル地区として取り組むこととしました。

また新学習指導要領で武道の必修が規定される中、小田中学校で、地域の指導者を招き「中学校武道必修化に向けた地域連携指導者実践事業」に取り組みました。

7 健康づくりプロジェクト

内子町は、県内で3番目に自殺者が多い町です。この問題に対し、基礎調査や実態把握に努めながら対策を進めていきます。

昨年10月にはうつ病に視点を当てた「心のふれあいフェスティバル」を開催。うつ病予防のための啓発活動や、精神保健ボランティア講座を通して地域サポーターの養成を進めます。また、保健師のスキルアップも図っていきたいと考えています。

8 元気商店街プロジェクト

内子町商工会青年部が中心となって組織するまちづくり委員会は、関係住民と「六日市商店街通りまちづくり協定」を結び、国の交付金などを活用して景観整備事業などに取り組んでいます。

商工会五十崎支部が中心となって五十崎産和紙のブランド化を目指して取り組んでいるJAPANブランド育成事業は、21年度が最終年度となっており、今後に向け新たな戦略が必要です。

さまざまな技術をもつ人々が連携して組織する内子手しごとの会は、昨年8月に「21世紀えひめの伝統工芸準大賞」を受賞。観月会での催しや、百貨店での展示即売などを行いました。今後は町並み保存地区の空き家を利用した展示会場の設置、販売戦略などが求められています。

町並観月会で開かれた内子手しごとの会の展示会

9 自治システム構築プロジェクト

内子町のまちづくりの特徴である自治会制度。厳しい社会情勢の中で、町民による自治力を強化することこそが、まさしく「地域主権」だと考えます。自治会再編や自治会の地域づくり計画所の見直しも含めて、さまざまな地域課題の解決に向けて検討しなければならないと思っています。

10 行政改革プロジェクト

行政改革大綱および集中改革プランに基づき、5つの柱を掲げて取り組んできた行政改革が、21年度で最終年度を迎えました。今後、内子町行政改革推進委員会で最終検証が行われますが、計画どおり、またはそれ以上の成果が上がっていると感じています。

行政改革で内子町社会福祉協議会に業務移管した内子保育園とくるみ保育園に対し、町から園長・上級保育士・調理員をそれぞれ派遣。さらに、業務移管の不安感を取り除くため、1人のベテラン保育士を増員派遣し、円滑な事業運営と保育士の育成強化を図っています。22年度からは「延長保育」を開始する予定で、特色ある保育サービスが提供できるものと期待しています。

今後とも気を引き締め、各分野を検証しながら、選択と集中の中で「キラリと光るエコロジータウン内子」「住んでよし、訪ねてよし、美し（うま）し内子」を目指して、内子町のまちづくりに全力で取り組んでいきます。